

<商品テスト>

ウイルス対策をうたったマスク  
—表示はどこまであてになるの？



マスクの形状や大きさにより顔へのフィット状況が異なる。

新型インフルエンザの流行によりマスクの需要が増加しているが、最近では「ウイルス 99% カット」など、ウイルス対策をうたった商品が多く見受けられる。しかし、風邪をひいた時や花粉対策として使用されるマスクには公的な認証や基準はない。そのため、一般に販売されているマスクには高いウイルス捕集効率をうたう商品もあるが、本当に表示どおりの性能が得られているのか疑問が持たれる。

そこで、ウイルス対策をうたったマスク 15 銘柄（プリーツ型 9 銘柄、立体型 6 銘柄）を対象に、マスクのフィルター部の性能や着用時にできる顔とマスクの隙間から空気がどの程度漏れるのか等を調べた。

<テスト結果>

●**フィルターの捕集効率**………ウイルス対策をうたっているにもかかわらず、フィルターの捕集効率が低いものがあった。さらに、アメリカの規格である“N95 マスク”の基準を満たしていると受け取れる表記があっても、捕集効率が 80%以下のものが 3 銘柄あり、消費者が誤認するおそれがあった。

●**着用時の顔とマスクの間からの空気の漏れ**………すべての銘柄で平均漏れ率が 40%以上であった。また、フィルターの捕集効率が高いものでも、顔との隙間からの漏れがあるため、ウイルス等の微粒子を完全に遮断することはできない。モニターテストでも、半数以上の人がどの銘柄も鼻の辺りは隙間があると回答した。また、プリーツ型ではさらに頬の部分にもできやすかった。一方、漏れ率が小さいものは、息苦しいという結果だった。

●**価格**………1 枚当たりの価格の安い銘柄でフィルターの捕集効率が低いものがみられたが、価格が高いものであれば性能がいいというわけではなかった。

<消費者へのアドバイス>

咳やくしゃみなどの症状がある人は飛沫の飛散を防ぐために咳エチケットとしてマスクを着用するようにしよう。一方で、ウイルス対策をうたっていてもフィルターの捕集効率には差があることや、実際に着用した場合にも顔とマスクとの間には隙間ができることから、インフルエンザなどの感染を完全に予防することはできないと考えられるので、マスクの効果を過信しないように。

表示されている捕集効率は、捕集対象等が必ずしも同じではないので、数値をみても商品の性能を比較する目安にはならない。むしろ、できるだけマスクと顔の間に隙間なく着用できるように、価格よりも自分の顔のサイズ、形に合ったものを選ぶことが重要である。  
(『月刊国民生活』2010 年 3 月号より)

『月刊国民生活』は、国民生活センターが発行する消費者問題の専門誌です。「特集」を中心に、消費者関連法の解説や暮らしの相談、オリジナルの消費者注意情報、商品テストなどを分かりやすく掲載しています。

定価 500 円(税込み)。毎月 24 日発行。

ご注文は(社)全国消費生活相談員協会(TEL03-3448-9736)。書店でもお取り寄せいただけます。



\*独立行政法人国民生活センターは法律に基づいて作られた消費者のための機関です。